

特集 ふるさと
大垣再発見

ものづくりのまち

～進化し続ける産業



市は、県内有数の産業都市として、私たちの暮らしをより豊かにしようと発展を続けています。今回の特集では、市で産業が発展した経緯や、現在の状況、今後の展望などについて紹介します。

ふるさとの誇りである“産業”について理解を深めてみませんか。詳しくは、産業振興室（☎47-8609）へ。

明治～大正

工業基盤の確立

大垣は、古く江戸時代には、中山道や美濃路の旧街道が通ることから、東西文化・経済の交流点として栄えてきました。



大垣の工業化を図る原動力となった「揖斐川電力株式会社設立総会」（大正元年）

明治時代には、大垣を工業都市として発展させようと製糸工場や米穀取引所など、さまざまな事業が展開されました。しかし、資本力と経験不足などから思うような成果が得られず、外部の大資本を誘致する方向に転換されました。

明治36年には木曾三川分流改修工事の完成により、水害の心配がなくなると、再び当時の大垣商工会議所が中心となって工場誘致を実施。インフラの電気、電話、ガス、道路などが整備されました。

主なインフラ整備

- 電気**
- 明治42年 岐阜電気会社（現在の中部電力㈱）による送電開始
 - 大正 5年 揖斐川電力（現在のイビデン㈱）による送電開始

電話

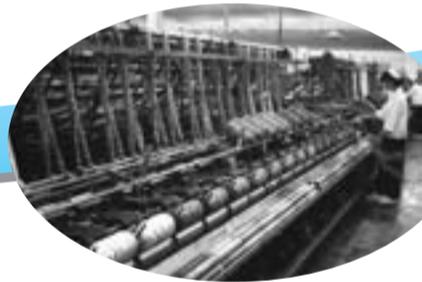
- 明治41年 電話開通
- 明治43年 「大垣-名古屋間」の直通電話開通

ガス

- 明治45年 「大垣瓦斯会社」設立供給

交通網の整備

- 明治17年 大垣駅開業
- 大正 8年 養老鉄道全線開通
美濃赤坂線開通
- 昭和31年 樽見鉄道開通
- 昭和39年 名神高速道路大垣IC完成
- 平成24年 東海環状自動車道
大垣西IC完成



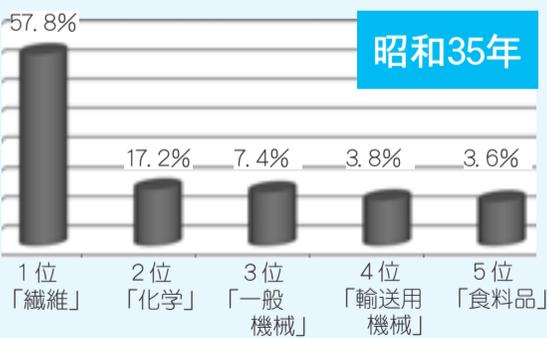
繊維工場内の様子（昭和42年）

昭和～平成 主要業種の移り変わり

大垣は、先人の努力により多種多様な業種が集積した、岐阜県有数の工業都市として発展してきました。

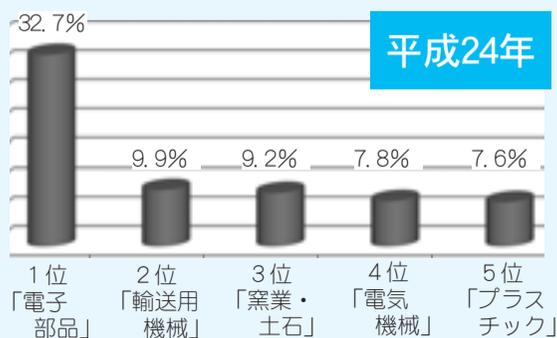
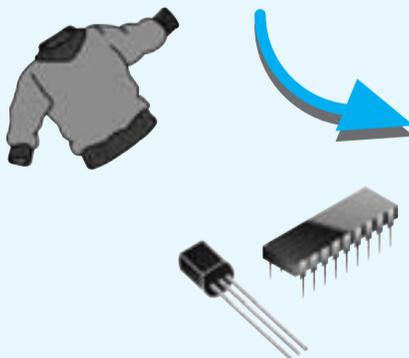
製造品出荷額の上位5業種の変遷

経済産業省「工業統計調査」



昭和期は、繊維業が工業全体の約6割を占め、大垣を象徴する主要産業でした。しかし、生産拠点の海外転換などによる企業の撤退などの影響などで減少し、現在では電子機械器具製造業、輸送用機械器具製造業が発達してきました。

特に電子部品・デバイスは、1990年代後半、急激にシェアを伸ばし、現在は全体の出荷額の約3割を占めています。



ソフトピアジャパンエリア周辺（平成24年）

ソ
コン
した
平
ルの
建設
集積
近
開発
リケ
ま
(IA
期待